

美術の窓(26)

古典の道 シルクロード

大和文華館館長 吉川 逸 治

今年、奈良でシルクロードの展覧会が開催されることとなったので、大和文華館も、4月22日から一ヶ月ほど春期の特別展をシルクロードの絵画展として、大谷探検隊が中央アジアの砂漠と山嶽の難路を通して、明治末から大正年代に蒐集された仏教関係の貴重な多くの遺品のうち、わが国にもたらされた一部のうちから、東京国立博物館はじめ所蔵家皆様の御厚意によって、三十余点の壁画や軸物、ことに貴重な彩画舎利容器などを展示することが出来ることとなりました。

三年前に本館が設立二十五周年を記念して催しましたガンダーラの彫刻の時も、御多忙中講演など色々援助して下さった東京芸術大学の平山郁夫教授が今回は、すでにいく度かこの難路を旅され、敦煌壁画保存、模写の事業にも従事される御多忙中、ふたたび来館され、映写と講演を引受けて下さったのみならず、シルクロードの最大遺跡、パーミヤーン現在の雄大な景観を描かれた大作の展示を援助して下さいだったので、古代遺物の景観だけではなく、現在の大遺跡の臨場感も得られるのではないかと、楽しみにしております。

シルクロードは、溯れば恐らく人類の文明が形成された数千年以前、紀元前三千年期始め、ティグリス、ユーフラテス両河流域、エジプトのナイル河流域、それにインダス河流域などに最も古い文明

圏が形成され、やや遅れて黄河流域も文明地帯に加わり、人々はそれぞれ独自の生活形態を開拓しつつ、規律ある社会組織で、金属器・陶器・織物などを開発し、ことに文字による記録と、石や煉瓦の大建設を築き、農産物の蓄積、工芸品の製産のために、相互に困難な幾条かの交通路を開いて、文物を交換しながら、成長してきた。

メソポタミアの精巧な工芸品、印章から煉瓦の大建造物趾、ことにエジプトの古王国時代のピラミッド、彫刻、浮彫、壁画を見ると、宇宙の秘められた創造の霊力が人々の生活を導いて、行なわしめたと感嘆する外ない。宇宙の霊力は、天の光をして、自然を育て、時に突然、怒りの雷光を放って驕者を亡す。超人的な現象は、自然であれ、生物であれ、神として、精霊、悪魔として、怖れられる。特に霊智に恵まれた者が、神・霊と交わる神官として尊ばれ、王も軍隊、農民、工商者も服従せしめ、国を治め、社会を組織し、神殿、祭礼が中心となる。時に、王自から神霊に通じ、神として顕現し、万民を治め、服せしむる。

古代オリエントの大建設とその豪華さに接すると、かかる神としての王を感じせしむるが、エジプトですら古王国の終末期には、かかる霊的帝王観はなくなり、権力・武力の戦争と征服が次の紀元前二千年期の人類史を彩り、世界の創造と神々の誕生の神話は過去の

名残りとなる。戦闘術を学んだエジプト帝国は近隣諸国を侵し、領土を拡張、贅沢を誇り、帝権を守るために神官組織は形成される。メソポタミアも、怪物・悪霊の跳梁に権力を守る法理を考案して厳格な帝国を組織し、次いで、より効果的な軍国主義のアッシリア王国が興る。恐ろしい龍や有翼怪物の巨獣の像が、軍隊行列の浮彫と共にこれら帝国の城塞宮殿を守る。モーゼの厳しい神命、ダビデ、ソロモンの軍国主義と、その後の運命がこの時代の反映を示す。ただ東地中海のクレタ島のみ、快活な画像で飾られた解放的な宮殿群が、ひと時の平和を楽しんだらしい。

しかし、世紀の終りに近づくに従い、北方蛮族の激しい侵入の波に襲われ、相次いで帝国は衰亡し、蛮族は城塞文化を築き、武勇を誇る英雄時代となり、彼らは大蛇、怪物退治のみか、神々をも怖れず挑戦する。混乱のオリエントを征服するのは、光明の神の命に従って、闇の神と闘ったイラン民族のアケメネス朝ペルシア帝国の諸王で、エジプトからイラン高原に渉る広大な地域を統治下に納め、その影響はインド世界に及び、中国も西縁地方にその反映をうける。

この大帝国に最後まで抵抗して独立を全うしたのが、貧しいギリシア本土のスパルタ、アテネら諸都市連合で、前五世紀始め、ペルシアの侵入軍を撃退したギリシアは、彼らの誇るべき古代の古典文



ミーラン出土 有翼天使像(東博)

化を作りあげ、次の四世紀にアテネ、スパルタ、テーベと相争いつつも、引続き、古典文化を錬磨し、より人間的な、より自然な様式の文化として、すべての人々に親しみ易く、美しい、楽しいと感じられる美術、文学、思想を産む。

この古典主義は、四世紀後半、ギリシアを統一したマケドニア王の子、若いアレクサンドル大王がペルシア帝国を攻め滅し、中央アジアにバクトリア植民地を残し、インド侵入を途中で引上げて、帰路、バビロンで歿するが、大王の征覇によって、オリエント全域にギリシア古典文化はひろまった。やがてギリシア自体、紀元前一世紀、ローマに征服されるが、ローマはギリシア古典文化に化せられ、却って、ローマによって、古典文化は、ギリシア・ローマ文化として、その後も、ローマ帝国の領土に伝播する。

シルクロードは、古代世界で、最後に古代文化を完成させたギリシア・ローマ文化の運び伝える道路としての役割を荷うこととなる。それに従って西はライン流域から東はイランの新帝国ササン朝、中央アジアは、これに先立つクシャン王国、インドはグプタ朝帝国、中国は隋唐の帝国、そして日本の白鳳天平時代とそれぞれ吸収されつつ、古代古典は各地の文化の基礎として、しばしば各々の固有の民族文化に覆われながら存在してきた。

季刊 美のたより No.82

昭和 63 年 1 月 17 日

発行 大和文華館